

公益社団法人東京社会福祉士会

実践研究大会 2018 開催報告書

公益社団法人東京社会福祉士会  
実践研究大会 運営委員会

首題の件につきまして、次の通り報告いたします。

1. 開催概要

- 1) 開催日時：平成30年11月23日（金・祝） 午前10時～午後4時30分
- 2) 開催場所：読売理工医療福祉専門学校 5階 （東京都港区芝 5-26-16）
- 3) 開催規模：200人規模

2. 開催目的

- 1) 社会福祉の実践を学術的な観点で研究・検証することで、資質向上に寄与する
- 2) 社会福祉の実践を学際的な活動に発展させることができ、総体の向上に寄与する
- 3) 発表に基づくディスカッション等により、発表者へフィードバックが得られる
- 4) 他者の実践を参考に、自らの実践に気づきを与え、新たな展開に発展させられる
- 5) 社会福祉士の実践を広く周知することができ、社会福祉士の地位向上に寄与する
- 6) センター、委員会、事業、地区会の活動を内外に広く伝え、説明責任を果たす

3. 実施内容

1) 講演

- ・「ソーシャルワーク見える化の試み」帝京平成大学 臨床心理学研究科 高瀬 幸子 先生

2) 口述発表（座長 帝京平成大学 現代ライフ学科 米川 和雄 先生）

- ・実践報告 ソーシャルワーク協働事業センター 安武美保氏

『「とまりぎ」12年の歩み』

- ・実践報告 独立・開業型委員会 加藤誠氏

『独立・開業型委員会の設立に関する報告及び独立型社会福祉士の実際』

- ・実践研究 司法福祉委員会 忠澤智巳氏

『刑事司法ソーシャルワーカーの実践エビデンス』

- ・文献研究 東京福祉大学大学院 魏児玉氏

『地域マネジメントにおける地域包括支援センターの実態と今後の行方』

- ・実践報告・研究 障害者支援委員会

『「制度の谷間」に社会福祉士はどう対峙すべきか』

### 3) ポスター発表

- ・「活動報告」

ばあとなあ東京、権利擁護委員会、独立・開業型委員会、自殺予防ソーシャルワーク委員会  
障害者支援委員会、あだち社会福祉士会、板橋社会福祉士会

### 4) パネルディスカッション

- ・「心を病む人へのアプローチから考える『その人』・『世帯』への支援の課題について」

～ソーシャルワークの視点から～

地域包括支援センター委員会、子ども家庭支援委員会、障害者支援委員会、低所得者支援委員会

- ・「福祉的就労で何がおきているのか？」～障害者総合支援法改正から課題と展望を考える～  
就労支援委員会

### 5) ワークショップ

- ・「心をつなぐ安心電話」電話相談事業研究開発委員会

### 6) 制度紹介・個別相談

- ・「認定社会福祉士・生涯研修制度説明&～認定社会福祉士への道～個別相談会」生涯研修センター

### 7) シンポジウム（総括）

- ・高瀬幸子先生、小林良二先生（当会学術経験理事）をコーディネータに、各教室の報告を実施

## 4. 後援

東京都、港区、社会福祉法人東京社会福祉協議会、社会福祉法人港区社会福祉協議会、特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会、公益社団法人東京都介護福祉士会、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、社会福祉法人東京都育成会、NPO法人東京都発達支援協会、一般社団法人東京精神保健福祉士協会、公益社団法人日本社会福祉士会（順不同）

## 5. 参加者の状況

1) 参加者数：204名（東京会員181名、未記載・その他の会員23名）

2) アンケート集計結果：回収数119件、回収率58.3%

- ・回答者の状況（年代）

(SA)

年代	人数	
20代	5	4.2%
30代	9	7.6%
40代	33	27.7%
50代	40	33.6%
60代	28	23.5%
70代	3	2.5%
無回答	1	0.8%

- ・認知媒体

(MA)

媒体	回答数	
会報	74	62.2%
Web.サイト	23	19.3%
紹介	22	18.5%
その他	21	17.6%

・参加プログラム

(MA)

教室	テーマ等	回答数	
502	安心電話 WS	12	10.1%
	就労支援 PD	17	14.3%
503	基調講演（高瀬先生）	72	60.5%
	地域包括 PD	56	47.1%
504	ポスター展示	52	43.7%
505	SW 協働 C	25	21.0%
	独立開業型	19	16.0%
	司法福祉	29	24.4%
	東京福祉大	20	16.8%
	障害者支援	27	22.7%
506	認定社会福祉士	7	5.9%
	生涯研修制度	3	2.5%
	個別相談	4	3.4%

・意見や感想（概略）

(FA)

【会場について】会場

駅が近く至便、1フロアで移動しやすい、狭い、うるさい

教室によってはマイクが入っていても聞こえない、スクリーンが小さい

案内が昨年よりわかりやすい

【発表について】

実践報告が勉強になる、刺激になる、自身の現場でも必要なことだと感じた、見直してみたい  
聞きたいものが重なっている

事例、ディスカッションなど理解しやすかった、ディスカッション、共有の時間が欲しい

【今後へのご意見等】

一般、学生、地区会ももっと参加できると良い、来年も参加したい、準備から手伝いたい

【聞きたい・知りたいテーマ等】

様々な分野、共同の活動報告、他職種との連携、分野ごとの事例検討会

同一テーマのディスカッション、包摂、共生社会、人材養成SW

ストレングスアプローチの実践報告や研修

分野横断的な地域包括ケアシステムの実現への取り組み、地域共生社会について

青少年問題、児童分野、障害者支援（分野別）、SOGI（LGBT）、生活困窮や低所得者支援  
外国人について（増加、労働、入院、生活保護など）

精神障害者をとりまく環境、災害や引きこもり、障害者と高齢者の共生型サービスの今後  
認知症への対応、家庭支援、ストレス対処法、精神障害者の病院から在宅復帰への支援

委員会からの実践報告、活動紹介、専門性を高めるために何ができるか

social アクション、法の隙間の支援例など

ソーシャルワークの理論（視点、理論、モデル）

社会福祉士の専門分野別、業務独占化の動きについて

## 6. 所感

今回の実践研究大会は、口述発表5本、ポスター等展示7本、パネルディスカッション2本、ワークショップ1本と、基調講演という、小規模の開催であった。

周知媒体も、チラシやポスターなどの活用は最低限度にし、広報誌及び Web サイトでの案内を軸に行い、会場規模に合わせた活動にとどめたが、想定した参加者数を確保することが出来た。

参加者の声からも、実践から示唆を受けることができたなどあり、実践の振り返りと報告は得るものが多いと結論付けられると考え、会としても実践研究大会での発表を奨励していくこととしている。

ただし、今般のような口述発表の少なさは、きわめて憂慮すべき状況であり、基礎研修や各種研修等を通じて、理論や根拠に基づく実践と、論理的な実践の振り返り・評価が専門性の向上に極めて重要であること、および、それらの蓄積がエビデンス-根拠-につながるのだということを伝えていかなければならないことを実感した。

その他、自由意見に、ディスカッションへの希求が寄せられていた。口述発表やパネルディスカッションにおいては、質疑応答がせいぜいで、参加者とのディスカッションは難しいものと理解している。

ディスカッションの題材としては、実践報告、研究報告は興味深いことでもあろうことと理解しているので、是非ともポスターセッションをご活用いただきたい。

今般のポスター展示はセンターや委員会、地区会の活動報告にとどまっていたが、本来の発表形式であるポスターセッションであれば、報告者とその報告内容に基づいたディスカッションを行うことができ、むしろ、そのような機会が、双方にとってよりよい気づきとなろうことから、今後は、ポスターセッションも活用いただけるよう推進していこうと考えている。

昨年度に引き続き、本年も認定社会福祉士や生涯研修制度に関する個別相談会も実施した。個別相談であることから、実数としては少ないものの、個別相談を希望される方が多く、対応者を増員して対応することとなった。

このことは、認定社会福祉士や生涯研修についての、一般的な理解にとどまらず、個別の、修習のロードマップ支援など、注力すべきことを示唆するものと理解した。

実践研究大会に限らず、折に触れ、これら個別相談の機会を増やすことや、常設相談窓口の設置など、今後の検討課題としたい。

手話通訳は、東京手話通訳等派遣センターの方にご協力いただいた。

基調講演については、通常の手話通訳をお願いした。午後については、初めての試みとして、口述発表やパネルディスカッションを聞きに来た聴覚障害の方に、個別に手話通訳するよう待機いただいた。

これは、実践研究大会という特性を勘案して、単に発表の通訳だけではなく、質疑やディスカッションも対応しようという試みであった。

周知が行き届いていなかったことにより、この仕組みを利用される方はいなかったが、この取り組みを続けることにより、より参加機運があがることを期待し、今後も継続しようと考えている。

今般の実践研究大会は、専門学校の教室をお借りして開催したこともあり、コンパクトで一体的な実施がなかった。ただし、200人規模での開催としては、もう少し大きな会場の方がゆとりある教室運用ができたのではないかという振り返りもあり、この経験を活かした開催につなげていきたい。

なお、当会は4,000人を超える会員を抱える会であり、それを勘案すると、200人の参加に甘んずることなく、より多くの会員が参加したいと思える機会としなければならないと考えている。

今回の開催にあたり、多くの関係機関による後援や、多くの会員によるサポートをいただいたこと、また、一般参加の方も、多くは同じ会員であり、次回からの協力をお申し出でいただくなど、多大なご支援を頂戴したことに御礼申し上げます。

(運営委員長 新堀)